ルポ 2

壮絶な体験ゆえの終活ニーズ

一瞬にして奪われた多くの命。直面した人たちにとって、その衝撃は自らの死生観を変えるに十分なものだった。被災者らの死生観がうかがえる場面を紹介する。

被災者でノート記入の講習

「夫には『縁起でもない』と怒られたが、震災後、エンディングノートに万一のときのことを書きました」。宮城県東松島市に住む主婦(62)はそう話す。

震災では家族は無事だったが、石巻市に住む友人などが犠牲になった。記入したのは知り合いの葬儀業者が希望者に配った20ページほどの簡易なノートだという。

「いつまた、あんなことがあるか分からない。夫はいい顔をしないけど、私は万一のことから目を背けちゃいけないと思う。津波に備えるのも、死ぬことに備えるもの同じくらい大事でしょ」と笑う。

気仙沼・石巻で好反響

「真剣さが違うのです」。仙台市にあるライフスタイル・コンシェルジュの成田実千代チーフの言葉だ。ライフスタイル・コンシェルジュは、葬祭会社の清月記(仙台市宮城野区)が仙台市の繁華街で運営している相談サロンだ。「趣味や相続、仏事相談まで幅広く対応するために2012年末にオープンしました。ほぼ毎月開催しているエンディングノートの書き方セミナーは毎回定員を超える応募があります」(広報担当の千葉和徳さん)

「真剣さが違う」という冒頭の言葉は、成田さんが2013年夏、宮城県気仙沼市と石巻市に出張してエンディングノート書き方セミナーの講師を務めたときの感想だ。各40人ほどが参加した。

多くの人が犠牲になった地域での開催。震災後2年を経てようやく「開催してほしい」という声がかかった。「セミナー後に『聞いて良かった』『書こうという気持ちにさせてくれてありがとう』と感謝の言葉をたくさんいただきました」

「『死』に関して大きなインパクトを受けた地域であるからこそ、万一のケースを考えることの大切さを強く感じていらっしゃるのだと思います」と成田さんは語る。

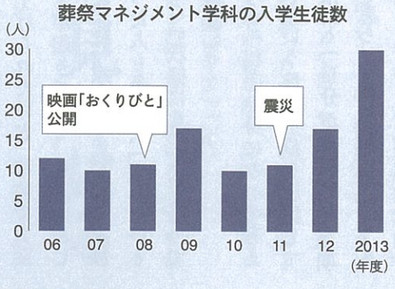
全国に広がった「死」の受容

震災によって、日本人全体の「死」に対するタブーの意識も大きく変わった。象徴的な一例が、葬儀学校を目指す若者の数の増加だ。例えば、駿台トラベル&ホテル専門学校(東京都豊島区)の「葬祭マネジメント学科」で日本人の葬送や供養について学ぶ生徒の数は2011年度が11人だったのに、震災後の入学者は12年度が17人、13年度は30人にまで増えた。

小林史一副校長は、「きちっとした裏付けがあるわけではないが」と断わったうえで、「震災の影響は大きいと思う。被災地からの報道などによって多くの人が、葬送の仕事をタブー意識なく身近に感じたようで、『遺族をサポートしたい』『辛い場面にいる人に役立つことができるのなら』といった志を持って、葬儀のことを学びにくる若者が目立つようになった」と話す。

震災後は報道以外にも、『遺体 明日への十日間』やベルリン国際映画祭で特別賞を受賞した『先祖になる』など、被災地の葬祭業者や肉親の死を扱った映画のほか、書籍、インターネット映像が大量に流通しており、日本人の死生観に少なからぬ変化を与える背景になっている。

駿台トラベル&ホテル専門学校
葬祭マネジメント学科の入学生徒数



命の大切さ学ぶ、ツアー計画も

被災地の経験を各地へ広げたい

「被災地で醸成されてきた『命の大切さ』への思いを、多くの人に吸収してもらいたい」

岩手県一関市の一般社団法人「てあわせ」の後藤泰彦理事長(常堅寺住職)は、「被災地で『終活ツアー』を」と準備を進めている。

被災者に集まってもらい各地で桜を植える活動をしている後藤泰彦さん(中央正面向き)

後藤さんは、実家が宮城県石巻市にある。被災地で被災者らとともに桜の苗木を植える活動をしていくなかで、終活ツアーを思いついた。

「震災をきっかけに被災地では、悔いのない生き方をすることの大切さや、死を直視して備えることの大切さを学んだ人が多い。それは、他の地域に住む人にとっても重要なことではないだろうか」と考えたからだ。

初めてとなるツアーは4月20、21日に計画している。仙台駅からバスに乗って、被災地の巡礼や、桜の名所見学などをする。行政書士が同乗して、遺言やエンディングノートの書き方をレクチャーし、参加者それぞれに生きることの意味や命の大切さを考えてもらう。

被災地にある「命」を考えるヒント

社団では現在、石巻市内に「みちのく桜の森供養塔」を整備している。桜の森のなかに、震災慰霊碑や合葬墓を建立。合葬墓は、地元出身で墓を持たない人のUターンや、おひとり様のIターン先として利用してもらう計画だ。ツアーのなかでも、被災者以外の人たち向けた供養のあり方を考える場として紹介することにしている。

後藤さんは「被災地には命の大切さを考えるうえで沢山のヒントがある。ぜひ、足を運んでもらえればうれしい。それが、震災の風化を防ぐことにもなると思うのです」と話している。

「てあわせ」による終活ツアー

- 日時 4月20、21日　仙台駅から専用バス使用
- 旅程 仙台〜松島〜石巻〜南三陸町ホテル泊〜北上桜名所〜中尊寺〜仙台
- 費用 2万5000円前後を想定(ホテル・昼食など含む、自宅から仙台は各自負担)
- 4月11日に東京都内でツアー説明会を兼ねた終活セミナーを開催する(定員50人)
- 問い合わせ　常堅寺　☎0191・43・3932
- 申し込み　富士ツーリスト　☎0225・93・9861